

AI基本検定

公式テキスト

AI Basic Certification — Official Textbook

発行	プライベートAI推進協会 (PAPA)
バージョン	ver.1.0 / 2026年2月
受験料	¥3,000 (税込)
試験形式	20問・30分・4択・合格70%
配布	無料 (privatellm.jp)

本テキストはAI基本検定の全出題範囲をカバーした公式学習資料です。数日で合格を目指せます。

第1章 AIの基礎知識

出題比率：30%（約6問）

1-1 AIとは何か

AI (Artificial Intelligence=人工知能) とは、人間の知的活動をコンピュータで再現する技術の総称です。1950年代から研究が始まり、近年の計算能力向上とデータ量の爆発により実用化が急速に進んでいます。

1-2 機械学習・深層学習・生成AIの関係

概念	説明	関係
機械学習	データからパターンを学習する技術全般	AIの中に含まれる
深層学習	ニューラルネットワークを多層に重ねた機械学習	機械学習の中に含まれる
生成AI	新しいコンテンツを生成できるAI	深層学習を活用した応用

1-3 LLM（大規模言語モデル）

LLM (Large Language Model) とは、膨大なテキストデータで学習した生成AIモデルです。入力された文章の次に来る言葉を予測することで自然な文章を生成します。ChatGPT・Claude・Geminiなどがこの技術を使っています。

1-4 ハルシネーション（幻覚）

AIが事実でない情報を自信満々に生成してしまう現象です。重要な情報は必ず一次情報源で確認することが重要です。

■ 第1章まとめ

- ☒ AI=人間の知的活動をコンピュータで再現する技術
- ☒ AI > 機械学習 > 深層学習 > 生成AI の包含関係
- ☒ LLM=大規模言語モデル。ChatGPT・Claude等が該当
- ☒ ハルシネーション=AIが誤情報を自信満々に生成する現象

第2章 ローカルAI vs クラウドAI

出題比率：35%（約7問） ← 最重要分野

本検定の最重要分野です。この章を深く理解することが合格への最短ルートです。

2-1 クラウドAIのリスク

リスク	内容
情報漏洩	機密情報・個人情報が外部サーバーに送信される
コスト膨張	従量課金制のため大量利用で月数百万元になることも
学習利用	設定によってはデータがAIの学習に使われる可能性
法的リスク	個人情報保護法・GDPRへの対応が必要

2-2 ローカルAI vs クラウドAI 比較

比較項目	クラウドAI	ローカルAI
データの扱い	外部送信あり	社内完結・送信なし
情報漏洩リスク	高い	ほぼゼロ
コスト	従量課金（変動）	固定費のみ（電気代等）
インターネット	必要	不要
最新モデル	常に最新	自分で更新
導入の簡単さ	即日利用可	設定が必要

2-3 用途別の選択基準

- 機密情報・個人情報を扱う業務 → ローカルAI
- 一般的な情報収集・アイデア出し → クラウドAI
- 大量の継続処理・法規制が厳しい業種 → ローカルAI

■ 第2章まとめ

- ☒ クラウドAI→データが外部送信→情報漏洩リスク
- ☒ ローカルAI→データ社内完結→情報漏洩リスクほぼゼロ
- ☒ クラウドAIは従量課金→大量利用でコスト膨張
- ☒ 機密情報はローカルAI、一般情報はクラウドAIを使い分ける

第3章 主要クラウドAIサービス

出題比率：20%（約4問）

サービス	開発元	特徴
ChatGPT	OpenAI	最も普及。GPT-4oで画像・コード等に対応。GPTsで独自AI作成可
Claude	Anthropic	安全性重視。長文処理・文書分析が得意。Constitutional AI採用
Gemini	Google	Google Workspace連携が強力。リアルタイム情報検索対応
Copilot	Microsoft	Microsoft 365 (Word・Excel・Teams) と深く統合

■ 第3章まとめ

- ChatGPT (OpenAI) = 最普及・GPTs機能あり
- Claude (Anthropic) = 安全性・長文処理が得意
- Gemini (Google) = Google Workspace連携
- Copilot (Microsoft) = Microsoft 365連携

第4章 ビジネス活用の基礎

出題比率：15%（約3問）

4-1 プロンプトエンジニアリング

AIから望む回答を引き出すための指示文（プロンプト）の書き方・技術のことです。具体的に・役割設定・出力形式を指定することで回答の質が大幅に向上します。

- 具体的に書く（「良い文章」→「500文字・メール形式で」）
- 役割を設定する（「あなたはマーケターです」）
- 出力形式を指定する（箇条書き・表・JSON等）

4-2 法的注意点

AI生成コンテンツの著作権は法整備途上です。個人情報保護法に基づき、顧客の個人情報をクラウドAIに入力することは避けてください。

■ 第4章まとめ

- ☒ プロンプトエンジニアリング=AIへの指示の書き方
- ☒ 具体的・役割設定・形式指定で回答の質が上がる
- ☒ 個人情報・機密情報はクラウドAIに入力しない
- ☒ AI生成物の著作権は法整備途上→商用利用は要注意